

皆さま、

このたび、11月29日から12月1日にかけて、東京大学伊藤謝恩ホールにおいて第3回自然リンパ球国際会議を開催させていただくことになりました。テーマは「次世代の自然リンパ球研究へ向けて」です。

リンパ球でありながら抗原受容体を持たず、周りの細胞が産生するサイトカインに反応して大量のサイトカインを産生する自然リンパ球の存在が広く認知されるようになったのはこの10年くらいのことです。約50年前に発見されたナチュラルキラー細胞や、1990年代に発見されたリンパ組織誘導細胞を含め、自然リンパ球の研究は大変盛んになりました。このような状況を受け、2014年に第1回自然リンパ球国際会議がパリで開催されました。その後、2014年にはベルリンで第2回自然リンパ球国際会議が開かれ、300人を越える多くの研究者が一堂に会して議論をしました。

今回、第3回の国際会議を企画するに辺り、自然リンパ球に限らず、 $\gamma\delta$ T細胞、NKT細胞、MAIT細胞なども含め、広く自然免疫系で重要な役割を果たす細胞に注目し、自然免疫におけるリンパ球の役割を考える、より広い議論ができるシンポジウムにしたいと考えております。特に、恒常性の維持、感染症や炎症における役割など、広い分野にわたる議論を期待しております。

プログラム委員会では多くの方々、特に若手からの演題応募をお待ちいたしております。今回は一般演題枠を増やし、招待講演だけではなく、次代を担う多くの若手から発表をしていただく予定です。またImmunity誌やJ. Exp. Med.誌などがポスター賞を提供してくれました。優れた発表にポスター賞を差し上げる予定です。

また、自然リンパ球が多くに疾患とも関係することから、疾患との関わりに関する演題が寄せられることも期待しております。

多くの皆さまのご参加と演題応募をお待ちしております。

組織委員会を代表して、

小安重夫、久保允人、茂呂和世、澤新一郎